

宮古郷土史研究会 会報

No.264

編集 発行 宮古郷土史研究会

〒020-0101 宮古市中央区下甲 二二一八
〒020-0101 宮古市中央区下甲 二二一八
〒020-0101 宮古市中央区下甲 二二一八
kyoudoshinken@gmail.com

△九月定例会レジメ△

稲村賢敷関連資料覚書

湯屋 秀捷

はじめに

二〇二四年は宮古郷土史研究の草分け、稲村賢敷の生誕一三〇周年になる年である。筆者は宮古島市総合博物館紀要二八号にて、宮古島市総合博物館に収められている稲村賢敷により発掘、採集された考古学的資料について、その概要や収集地の情報をまとめた。

宮古島市総合博物館に収められている資料を「稲村資料」と呼んでいるが、稲村賢敷の研究に関する資料は図書にも「稲村文庫」という名称で収められている。「稲村資料」を考古学的資料に限定せず、彼の残した写真などの資料まで含めたものとして考えるのであれば、「稲村資料」は現在、博物館と図書館の二施設に収められているといえる。本稿では、先に報告した考古学的資料に、図書館収蔵の資料の情報を加え、現在宮古島市で確認可能な稲村資料の全体像について記録することを目的とする。図書館収蔵資料の内容や博物館の考古学的資料それぞれの詳しい検討は今後の課題とする。

宮古島市総合博物館の考古学的資料

市総合博物館に収められている考古学的資料の総点数は、同館発行の「宮古島市総合博物館収蔵資料目録―歴史資料編―」（宮古島市総合博物館二〇二二）によれば、一六〇二点とされている。土器資料が大半を占めるが、石器等も見られる。遺物に直接の注記はなく、採集地などの情報や稲村の所見が書かれた紙片が貼り付けられている。紙片から情報を取ることが可能な資料はごくわずかである。

資料は木箱、ビニール袋に入れられており、総合博

物館に収められた当時から体系的な整理は行われていない。前述の資料目録作成にあたり、大まかな器種ごとに分類され袋分けされた程度である。この他に、かつて資料が入られたと考えられる布製の袋には墨書で収集地や収集年が残されている。

資料が収集された年代は箱書きなどから、一九四九年～一九六一年の間のものと考えられる。収集地は宮古島を中心に、久米島（具志川城）、石垣島、西表島、波照間島である。これら収集地は、稲村による著作に記されている収集地と概ね一致する。

総合博物館の資料がいつ、どのような経緯で博物館へ収められたのか、一切の記録がない。資料の入られた箱に貼り付けられた備品シールの情報から、一九五八年には琉球政府図書館宮古分館に寄贈されたことは明らかである。その後、一部の資料がいつでも見ることができ環境にあつたという話もあるが、長らく図書館にあつた資料が平成元年の平良市総合博物館の開館に合わせて移管されたものであるのか、一九七九年開館の平良市歴史民俗資料館に一度移管され、その後博物館の資料となったのかは判然としない。

宮古島市立図書館の資料

宮古島市立図書館には、「稲村文庫」と呼ばれる稲村が所有していた文献などが閉架書架に収められている。「稲村文庫」は県立図書館宮古分館時代、一九七九年八月に目録が作成されている。これらの資料は図書館内での閲覧のみが可能となっている。

図書館の稲村賢敷関係資料はほとんどが書籍であり、入手可能なものが多いが、特筆すべきは稲村の直筆のキャプションが書かれた写真アルバムや、稲村のもとに届いた手紙、辞令書などが閲覧可能な状態で保管されている点である。特に写真アルバムは、稲村の家族が写されたものなど個人的なものも含まれるが、

調査の際に撮影された写真も少なくなく、当時の状況を伺い知ることが可能な資料といえよう。

この他に、稲村による日記が五冊ある。日記の仔細については確認ができていないが、個人的な所感から、稲村の著作の送付先リスト、遺跡調査に関するメモなどが見られる。かなりプライベートにも関わる部分もあるようなので、内容の公開については熟慮する必要がある。

遺跡調査のメモについては、稲村の著作にない遺跡の記述があるようなので、この点については検討の余地がある。遺構の寸法などについて具体的な記載があり、興味深い。しかしながら、一部の日記は稲村が宮古を離れてからのものであるようなので、メモされている遺跡、遺物がどのものであるのか、注意したい。手紙や日記の内容次第であるが、稲村が郷土史に考古学的手法を取り入れるにあたり関連した人物の手がかりがつかめる可能性がある。

図書館所蔵の稲村資料はほぼ全て紙資料であるが、沖縄県文化功労章の金杯がキャビネットに保管されている。

おわりに

以上ここまで、すでに報告した総合博物館所蔵の考古学的資料に加え、市立図書館にて保管されている稲村資料についてまとめた。現状、宮古島市における稲村賢敷関連資料は、①宮古島市総合博物館所蔵の考古学的資料（発掘と表採によるもの）、②宮古島市立図書館所蔵の稲村文庫および日記、写真資料の二か所に、分野の異なる資料が保管されている。それぞれの詳細については後の整理作業、検討作業に期待したい。

また今後の稲村の研究の再評価の中で、こうした資料が活用されるであろう。それまでに資料が散逸しないためにも、宮古島に残されている稲村賢敷が関係する資料を「稲村資料」という一連のコレクションとして捉え、所管が複数館でも適切な管理が行われるような記録づくりが求められよう。そのためには、まずは博物館所蔵の稲村資料の整理が待たれるが、筆者による報告でも述べたように、作業には時間と遺物に関する専門的知識が求められ、年月を要するものである。